

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:58.

帝王切開を受ける産婦の術中の心理状態と手術部看護師に求める看護

須田 紘子、高橋 璃衣、本間 敦

帝王切開を受ける産婦の術中の心理状態と手術部看護師に求める看護

旭川医科大学病院、手術部ナースステーション ○須田 紘子、高橋 璃衣、本間 敦

○目的

帝王切開(以下、帝切とする)を受ける産婦は、児娩出後に表情の変化が見られる。しかし、手術部看護師は、常に産婦の傍に居る事が出来ない為、産婦の求める看護を提供出来ているか疑問に思った。そこで、産婦の術中の心理状態と手術部看護師に求める看護を明らかにする。

○方法

本研究はA病院倫理委員会の承認を得た。研究対象には研究主旨、辞退の自由を説明し、同意を得た。2013年9月～10月で児の異常がなく、定期帝切術を受ける産婦5名を対象とした。半構成面接法で面接を行い、データ化し、カテゴリーに分類した。

○結果

126個のコード、53個のサブカテゴリー、29個のカテゴリーを抽出した。
手術開始までに【麻酔の緊張感】等を述べた。手術開始から児娩出までの産婦は【児の無事が気がかりな気持ち】等を表出した。児娩出から母子対面までの産婦は【児と対面した時の喜び】等を感じた。母子対面後から産婦退出まで産婦は【児娩出後の幸福感】や【児退室後の身体的苦痛】を述べた。
産婦は手術部看護師に対して【現在の状況説明が不足している】、【要望や気持ちを伝えやすい環境が整っていた】等と感じた。

○考察

産婦は手術開始まで【麻酔の緊張感】等があり、緊張が強い時期だと考える。手術開始後からは【児の無事が気がかりな気持ち】があり、手術開始までと比較し、児への関心が高まったと言える。児娩出から母子対面までの産婦は【児と対面した時の喜び】等を感じ、今までの緊張が一瞬で消える程、喜びが強い時期である。しかし母子対面後から産婦退出までは【児退出後の幸福感】から喜びが持続する産婦と、そこから関心が移り変わり【児退室後の身体的苦痛】を抱く産婦が見られた。この時期は助産師が児と共に退出する。ここから、手術部看護師にしか産婦のケアが出来ない為、産婦の状態に合わせたケアが必要である。

産婦は、手術部看護師に対し【要望や気持ちを伝えやすい環境が整っていた】と感じていた。一方で、産婦は手術開始から母子対面までに【現在の状況説明が不足している】と述べ、手術室内の状況や児の様子等、具体的な情報を求めている。

○結論

- ・手術開始までは緊張が強くなる時期であったが、児娩出後は緊張が解消される程の喜びであった。また、児退室後は、喜びが持続する場合と、関心が移り変わる場合があった。
- ・児退室後は、手術部看護師にしか産婦のケアが出来ないため、産婦の状態に合わせた介入が必要である。